

図 10 電波（直線偏光）でみた W50 の中心部の強度変化。A, B, C で示された「つぶ」が中心から飛び出している。

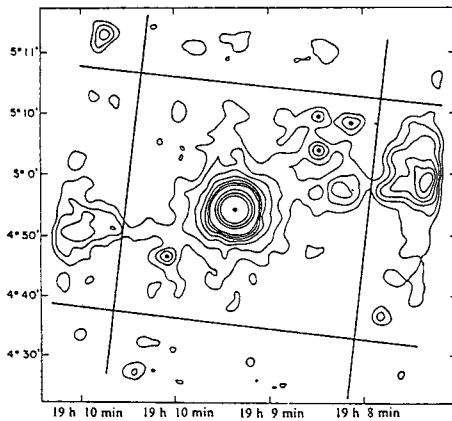


図 11 アインシュタイン衛星がとらえた X 線の強度分布。

いる。注目されるのは 6.8 KeV の線スペクトル (e.w ≃ 600 eV) があるという報告もあることで、このときはスペクトラムが軟かったこともあり時間変動と関係があるのかもしれない。

SS 433 が注目された時期にはウフルやアリエル V の活動がなくなってしまい、アインシュタイン衛星も間もなく死んでしまったために、X線での観測データは電波や光に比べて極めて少ない。X線と光の光度曲線の関係、特にX線での食があるのかどうか、X線と電波のフレア的な変動の関係等々よくわからないことばかりである。幸いなことに今年の2月に「てんま」が打ち上げられ、活動を始めた。今後の「てんま」のデータに期待しよう。

7. おわりに

SS 433 はまだまだ多くの謎につつまれた天体である。特に高速ジェットの原因やその加速機構については不明な点が多い。スケールは全く異なるが、電波銀河やクエーサーにみられるジェットとの類似も指摘されている。今後も多くの観測が続けられるだろうが、特にX線と光、電波との同時観測が必要であろうと思われる。

お知らせ

宇宙科学研究所助手公募

公募人員：助手1名

所属部門等：共通基礎研究系宇宙空間原子物理学部門。

同部門には、教授 高柳和夫、助教授 市川行和、助手 崎本一博が在任中。原子分子過程の理論的研究と、その宇宙科学への応用（必要なデータの収集・評価等を含む）に意欲をもつ若い人を求めます。現在までの専門分野は問いません。

着任時期：決定後なるべく早い時期

必要書類：(1) 略歴、(2) 研究歴、(3) 論文リストおよび主要論文別刷各1部、(4) 着任後の研

究に対する抱負、(5) 他薦の場合は推薦書、自薦の場合は本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先。

締切：昭和58年8月20日（土）

宛先：宇宙科学研究所 所長 森 大吉郎

〒153 東京都目黒区駒場 4-6-1

電話 (03) 467-1111

問合せ先：不明の点の問合せ、および資料の請求は下記あてに願います。

宇宙科学研究所 高柳和夫 内線 355

選考：選考は宇宙科学研究所運営協議員会議において行います。応募者中に適任者がいない場合は決定を保留することがあります。

その他：封筒に「助手応募（推薦）書類在中」と朱書して下さい。